

砥石水（といしみず）となる涙

先般、ひらわかドリームアリーナ（平川市）で行われた高校の剣道大会に審判員として行ってきました。新型コロナ感染症により様々な大会が中止になる中、厳格な感染症対策を施しながら子ども達の活躍の場を提供し、無事大会を終えられた関係者各位には頭が下がる思いです。そして、この厳しい環境の中でも常に前を向き、各校の新人選手が頑張っている姿にたくさんの元気をもらいました。

大会期間中、廊下等で選手や監督が涙する姿を見かけました。ある選手は奥の人気（ひとけ）のない所で壁に向かって一人で泣いていました。みんなで集まって泣いているチームもありました。選手とのミーティングで感極まって涙する監督の姿もありました。それは悔（くや）し涙なのか、嬉（うれ）し涙なのかは分かりませんが、「今回の結果に涙を流すほど頑張った証（あかし）」なんだなと思い、胸が熱くなりました。

刃物を研（と）ぐ時、砥石（といし）を使います。しかし、砥石だけでは研げません。そこには磨くための水が必要になります。勝った人も負けた人も、今回流した涙が心技体を磨く砥石水（といしみず）となり、さらなる成長につながってくれればと願っています。

その涙 心剣（真剣）磨く 砥石水

藤川俊彦（11月17日更新）